

25) 靈的エクササイズ18. 2020年5月2日 (聖母の土曜日)

朗読 使徒言行録9：31-42

福音 ヨハネ6：60-69

(聖書は基本的に新共同訳を使用しています。そうでないときは明記します。)

父と子と聖霊の御名によって、アーメン。

イエスとイエスの母、私たちの御母は賛美されますように！

兄弟姉妹の皆さん、今日はヨハネ6章の最後の部分です。60節から読みます。

「イエスの弟子たちの多くの者は言った。『実にひどい話だ。だれが、こんな話を聞いていられようか。』 イエスは、弟子たちがこのことについてつぶやいているのに気づいて言われた。『あなた方はこのことにつまずくのか。』」

皆さん、多くの方がイエスの言われたことにつまずき、その意味が分かりませんでした。

イエスが本当はどなたであるかということも、理解できませんでした。

イエスがナザレで話された時にも、「彼は大工の息子ではないか。この人の母はマリアではないか」(マルコ6：1-6 / マタイ13：53-58 / ルカ4：16-30)と人々はイエスにつまづきました。

しかし、イエスが、人々の評価を気にされることはありませんでした。イエスは一貫して真理を、御父のもとで見たこと聞いたことだけを語られました。イエスは、何かを証明しようとしたのではなく、ただ、私たちが失われたいめだけに、真理によって私たちが解放されるためだけに行動されたのです。

ヨハネ6章で、イエスは、「皆、神の学校の生徒でなければならない」と言われているのです。私たちは神の学校に通うことができるほど謙遜でしょうか？ もしかすると、みことばに立ち止まったり、あるいはつまづくことがあるかも知れません。それでも神のおそばに留まり続ける忍耐があるでしょうか？

靈的エクササイズでは、この「つまづきの石」が非常に大切です。

これらの石に、足をとられ、つまづくかも知れません。しかし、それで怒ってはなりません。そこに留まるべきです。そして、「なぜ、私はつまづいたのか」と自分に聞いてみるのです。

私も、人の悪意や不正によってつまづかされたことがあります。その時、その状況と真理のみことばとを対比させるなら、私たちの人生の中の深みに隠されているものの覆いを、神に取り払っていただくことができると学びました。

つまづきの石が隅の親石となりました。(第一ペトロ2：4-8参照)

イエスは、つまりきが避けられないことをご存知でした。家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となったのです。私たちの信仰、希望、愛の基礎となったのです。この石が私たちの救い、永遠の命となったのです。

みことばに留まることは非常に大切です。つまりいても、留まりましょう。決して走り去ってはいけません。

福音書を広い視野で読むなら、ある箇所が他の箇所を思い出させることがあります。

今朝、私たちが聞いた『実にひどい話だ。だれが、こんな話を聞いていられようか。』という言葉への答えを、イエスはヨハネ16章12節で与えられています。

「まだたくさんあなた方に言いたいことがあるが、今、あなた方はそれに耐えることができない。」（フランシスコ会訳）

「今はまだ耐えることができない」とイエスは言われます。「あなた方はまだ成長過程にあるのだから」と。

イエスは、私たちが成長するために時間をくださいます。もし、あなたが今、「他の人に理解できても、私にはできない」と思われるなら、「留まってください」と私は言いたいです。留まるように、と励まします。

イエスが私たちに言われたように、聖霊に願うのです。16章の次の節を読んでみてください。「真理の霊であるその方が来られると、真理のあらゆる面であなた方を導いてくださる。その方は自分勝手に語るのではなく、聞いたことを語り、起ころうとしていることを、あなた方に告げてくださるからである。」（フランシスコ会訳）

主、イエス・キリスト、私たちが成長するための準備ができますように、成長することができますように、私たちの心を忍耐と謙遜で満たしてください。

聖霊、来てください。私たちの中に流れ込んでください。イエスの言葉を正しく理解することができますように、そして、私たちがイエスの中で、イエスを通して成長することができますように。

聖母とともに、聖母のように、「たとえ私にはすべてが理解できなくとも、おことばの通りになりますように」と言えますように。

皆さんを、父と子と聖霊の御名によって祝福します。アーメン

私たち皆にとって祝福に満ちた日となりますように。